

Bクラス(2歳・3歳)成績表

優勝 加藤春男																	
加藤				金田 華優勝								五回戦					
加藤		松井		金田				片岡				四回戦					
山本	加藤	奥村	松井	加藤		金田		片岡		中井		三回戦					
川路	山本	佐藤	加藤春男	奥村	富井	松井	大河原	敗者復活	加藤	金井	金田	橋場	片岡	明石	金子	中井	二回戦
16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	NO.	一回戦
加藤	富井	金井	奥村	金田	松井	川路	橋場	佐藤	片岡	明石	大河原	金子	山本	中井	加藤春男	氏名	
子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	初所	
高尾	高尾	高尾	高尾	高尾	高尾	高尾	高尾	高尾	高尾	高尾	高尾	高尾	高尾	高尾	高尾	初所	

三位決定戦
片岡 松井

大会の運営について

1. 対局場の設定及び参加受付。
浅川寿団基同好会の会員により会場整備及び参加受付業務を行う。
2. 競技の進行について。
由水寿団基同好会の競技委員の御協力に次のタイムスケジュール通り実施する。

対戦	開始時間	打ち切り時間
1回戦	10時30分	11時40分
2 "	12 "	1 "
3 "	1 420 "	2 430 "
4 "	2 447 "	3 450 "
5 "	4 "	5 410 "

3. 用会式は午後5時30分より行い、各クラス別の優勝者、準優勝者、オ3位者に表彰状を授与す。
4. 競技成績について。
各クラス別の成績は、別記成績表の通り。

Cクラス(初段)成績表

優勝 高瀬													
高瀬				吉開 華優勝								五回戦	
小原		高瀬		吉開				福庭				四回戦	
小原	川崎	高瀬	高瀬	吉開		山本		福庭				三回戦	
水野	小原	川崎	丹	萩原	高瀬	敗者復活	中島	吉開	山本	西山	堂谷	福庭	二回戦
12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	NO.	一回戦
中島	水野	若岡	小原	山本	丹	西山	高瀬	堂谷	川崎	福庭	萩原	氏名	
義彦	芳男	孝之	誠	進	文	要	宗一	一	一	一	一	初所	
元八	利田	秋岡	高尾	高尾	高尾	高尾	高尾	高尾	高尾	高尾	高尾	初所	

三位決定戦
福庭 小原

才女回新春囲碁祭り

日 時 平成3年3月2日(土), 3日(日)午前8時30分より受付
 会場 東京都八王子市労政会館 (明神町3-5-1)
 主催 八王子新春囲碁祭り実行委員会
 協賛 英立住販株式会社
 後援 財団法人日本棋院, 読売新聞社, 外多数

以上

毎年の恒例行事として、囲碁ファンが待望していた囲碁大会が、上記により盛大に開催されました。
 各対局場を参観して廻りましたが、熱気に圧倒され人ばかりで「身が引き締まる思いを感じました。

団体戦成績

A 組

順位	名 称	順位	名 称	順位	名 称	順位	名 称
1	明友会	5	池袋囲碁会館	9	西新井囲碁研究会	13	田園会
2	下北沢囲碁会館	6	囲碁クラブ燦々A	10	東大若年DB会	14	東三庵の甲クラブ
3	八王子囲碁研究会A	7	上 東 会	11	ニッケイ	15	吾田チーム
4	魁 星 会	8	棋友会A	12	男 片 山 組	16	藤代囲碁研究会

八王子囲碁研究会には、名取技術顧問が参加しております。

B 組

順位	名 称	順位	名 称	順位	名 称	順位	名 称
1	棋遊会B	6	埼玉星会	11	暮老連顧問会	16	囲碁クラブ燦々B
2	鉄砲音チーム	7	八王子囲碁研究会B	12	ケイオー会	17	邦器会
3	東北大チーム	8	上 村 会	13	緩星学園	18	航技研
4	関東はじけん同盟	9	東京都庁	14	八王子囲碁工房	19	座間碁業会
5	下北沢囲碁会館B	10	八王子雑草会	15	田中チーム	20	東京農工大

八王子囲碁研究会Bには、永安、徳永、荒井の各技術顧問が参加しております。

田中チームには、西田技術顧問が参加しております。

暮老連顧問会成績明細

対戦	メンバー	横 田	東	山 果	川 中	長 崎	勝ち点
邦 器 会		X	X	X	X	0	
座間碁業会		0	X	X	0	0	1
囲碁クラブ燦々B		X	X	0	0	X	
東京農工大		0	0	0	0	0	1
緩 星 学 園		X	0	X	0	0	1
勝ち数計		2	2	2	4	4	14/3

(4)

個人戦成績

種別 順位	棋 聖			有 段 A			有 段 B		
	氏名	級位	地域	氏名	級位	地域	氏名	級位	地域
優勝	福岡修二	6級	紀光市	和田浩一	4	前橋市	田中茂男	3	拜久村町
2	野島武夫	"	牛久市	村越正敏	5	厚木市	平 辰二	2	八王子市
3	内藤智明	"	山梨市	柳倉清敏	5	"	石石堂二	3	中野区
4	柳垣久之	"	武蔵野市	宮田年章	4	添 区	中村昌人	初	横須市
5	佐藤一雄	"	昭島市	早津義与治	5	横須市	守田俊生	2	日野市
6	佐藤義泰	"	横須市	森田紀元	4	川崎市	安部賀程	初	中央区

種別 順位	級 A			級 B		
	氏名	級位	地域	氏名	級位	地域
優勝	小菅直裕	3	日野市	工原博昭	6	日野市
2	松脇昭保	1	八王子市	片根繁司	8	八王子市
3	吉田孝弘	1	小平市	金 野三	8	杉並区
4	武川 宏	3	八王子市	島中好樹	5	昭島市
5	藤本羊助	1	"	中村雅史	7	横須市
6	中田良知	2	府中市	中沢克二	5	秋川市

参加人員

団体戦

クラス別	チーム数	人員
A 組	16	80
B 組	20	100
計	36	180

個人戦

種別	人員	内 訳		
		他地域	八王子市	(既入)
棋 聖	59	54	5	(12)
有段A	109	79	30	(11)
" B	177	106	71	(32)
級 A	66	29	37	(8)
" B	44	16	28	(19)
計	455	284	171	(72)

総人員

団体戦	180
個人戦	455
計	635名

基業連願団会チームの団体戦参加について

今年初めて団体戦に参加することになり、A組に申込みました所、実績が足りないため、A組への申し込みは無理であり、又、A組には全国クラスのメンバーが多数参加しているため今回は自重し、B組で参加するようとの御意向を頂きました。

結局は11位と云うことでしたが、初めての参加で11位なら最高位と御祝いの言葉を頂きました。メンバーの方々には感謝しております。(熊崎)

(5)

才10回思方地区囲碁大会

思方地区では毎年春・秋の2回、囲碁大会が開催されており、才10回大会は下記の通り挙行されました。

1. 日 時 平成3年2月17日8時30分～17時
2. 会 場 思方老人憩の家
3. 主 催 思方地区社会教育委員会
4. 競技結果

Aクラス(2級～5級)6名
 優勝, 羽村繁男2級, 準優勝, 清水和彦2級

Bクラス(4級～2級)6名
 優勝, 山崎 稔2級, 準優勝, 松山敏明2級
 以上

団体対抗戦参加者(2回戦3月24日)

級別	級位	氏 名	級別	級位	氏 名	級別	級位	氏 名
		大和田			元八王子			由 井
6	5	高田 徳男	6	5	印 井 賢一	6	5	花 井 進
5	5	亀 谷 孝治	5	5	近 平 和允	5	3	高 野 信
4	3	豊田 弘佑	4	4	高 橋 実	4	3	正木 正友
3	3	齋 生 孝男	3	3	箱 葉 利夫	3	2	福 田 翁
2	2	戸 野 敦允	2	2	高 橋 重二	2	2	宇谷屋 哲一
初	初	中 島 雅雄	初	初	山 崎 稔	初	2	大 塚 才良
		浅 川			長 房			中 野
6	5	保屋野 正清	6	6	小 西 徹	6	5	木 島 洋治
5	5	城 大次郎	5	5	小 川 勇	5	4	岡 田 宗明
4	4	小 林 晃	4	2	戸 谷 富美男	4	4	岡 野 省三
3	3	加 藤 春一	3	2	松 井 豊	3	3	山 内 教夫
2	2	奥 村 章	2	2	山 崎 修	2	2	牧 嘉 賢
初	初	丹 威 史	初	初	安 田 実	初	初	奥 藤 正城
		由 木			子 安			
6	7	石 田 五男	6	6	植 木 繁吉	対戦4-1は次の通り 大和田：浅 川 由 木：元八王子 長 房：子 安 由 井：中 野 注：右側は僅4-1		
5	5	吉 成 進	5	6	横 山 勝利			
4	4	神 保 大二	4	4	早 川 泰			
3	4	齋 日 昇	3	2	中 村 哲 雄			
2	2	川 和 吉郎	2	2	和 田 平一			
初	初	嶋 根 昭	初	初	倉 田 政治			

団体対抗戦成績表 (1回戦 2月24日)

		浅川4-1 (勝算0)			中野4-1 (勝算1)			勝計
順位	中野	6	5	4	3	2	初	
		浅川	木島(5)	園田	園野	山内	藤本	大本木
6	浅川	0	X	X				1
5	長谷川	0	0	X				2
4	城(5)	X	X	0				1
3	加藤				0	X	X	1
2	橋場				X	0	0	2
初	細見				X	X	X	0
	勝計	1	2	2	2	2	2	11/7

		田木4-1 (勝算1)			大和田4-1 (勝算0)			勝計
順位	大和田	6	5	4	3	2	初	
		田木	豊谷(5)	豊田(3)	八木(3)	平野(2)	宮崎	島山
6	寺本(7)	0	0	0				3
5	鈴木	0	0	0				3
4	吉成(6)	X	0	0				2
3	神保(4)				0	0	0	3
2	城定				X	0	0	2
初	苗栗				X	X	0	1
	勝計	1	0	0	2	1	0	4/14

		元八王子4-1 (勝算0)			長房4-1 (勝算1)			勝計
順位	長房	6	5	4	3	2	初	
		元八王子	小西	小川	平谷(2)	秋井(2)	山崎	安田(鞠)
6	印水(5)	X	X	X				0
5	延平(5)	X	0	X				1
4	高橋	X	X	0				1
3	箱葉				X	X	0	1
2	片岡				X	0	X	1
初	箱葉				0	0	X	2
	勝計	3	2	2	2	1	2	12/6

		由井4-1 (勝算0)			子安4-1 (勝算1)			勝計
順位	子安	6	5	4	3	2	初	
		由井	藤井	花井	高野(3)	正木	福田	安谷屋(2)
6	榎本	0	0	X				2
5	榎山(6)	0	X	0				2
4	早川	0	0	0				3
3	甲村(2)				0	X	0	2
2	和田				0	X	X	1
初	倉田				X	X	X	0
	勝計	0	1	1	1	3	2	8/10

(7)

「ボケ防止と囲碁」の記事転載御報告の件

本件は、週刊「囲碁新聞」9月18日号より20回の予定で掲載されたものですが、日本棋院の御好意により碁老連ニュースに転載することを御承認頂きましたもので、9/2号より毎月2回分宛掲載することに致しました。囲碁愛好者にとっては貴重な文献であり、御期待下さい。

囲碁は「一生懸命考える」、「指先を常時動かす」、「競技特有のフィット」が「ボケ防止には囲碁が最高」と評価されている所以ではないでしょうか。

ボケ防止と囲碁

折茂 肇(東大医学部教授)

石倉 昇(博士・七段)

先週は、脳の驚異的な代償能力を紹介しました。人間の脳は、年齢とともに老化していきはかりでありません。年をとるとか、決してマイナスだけではないという、とても勇気づけられるお話だったのではないのでしょうか。

さて、今日は、一般紙の社会面にも掲載されて話題を呼んだ、光吉忠治郎さんをご紹介します。

鳥取県の男性最高齢者、光吉さんは、明治20年7月生まれ。百二歳になられた今年、見事アマチュア囲碁五段に認定されました。

20歳のころに職場の先輩のすすめで囲碁を始められて以来、光吉さんの棋歴はなんと80年にもわたります。昭和28年、倉吉市の助役を最後に退職され、当初は、囲碁クラブに参加したり昇仲間のお宅に通いながら、打ち込んでいらっしゃいました。昭和37年に初段を取得。それから、段位に挑戦することもなかったのだそうです。百歳を迎えたとき、「これを記念に自分の力を試してみよう」と、光吉さんの新たな挑戦

がスタート。日本棋院の囲碁雑誌「棋道」の段位認定テストに応募されるようになりました。そして五段合格。

「この年までぼけずにいられたのも、囲碁のおかげです。これからも六段を目指し、打ち続けたい」と語る光吉さんにとって、囲碁はまさに、生涯の伴りやたといえるでしょう。

日本棋院は「80歳以上で五段に認定されたのは恐らく初めて、まさに快挙です」と発表。鳥取県囲碁連盟は今年2月11日、光吉さんに「百歳囲碁名人」の称号を贈りました。

光吉さんの、快挙は、囲碁を打つ方だけでなく、日本中のお年寄りの方々への大きな励みになったのではないかと思います。

百歳になってもなお向上する可能性をもっている人間の脳。これは、驚くべきことです。囲碁を打つことが、この可能性を顕化させるのにはどうも役立つているのか、これからお話をすすめていくことにしましょう。(構成・高見亮子)

ボケ防止と囲碁

折茂 肇(東大医学部教授)

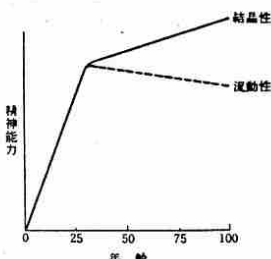
石倉 昇(博士・七段)

年を重ねて増大する能力「定石がなかなか覚えられなくて」という方に、石倉先生はいつもおっしゃいます。「定石はただ丸暗記するのではなく一手一手の意味を理解することが大切です。このことは、囲碁が暗記力だけで打たれるのではないということのわかりやすい例でしょう。

多くのゲームがほとんど暗記力だけで争われるのと違い、囲碁は、構想力や思考力、判断力など、さまざまに頭をはたらかせなくてはなりません。そして、これらの能力は、老化しない能力だといわれます。

左のグラフをご覧ください。「流動性知能」とは、生まれつき備わった能力のこと。暗記力やスピードを必要とする計算力がこれに当たります。一方「結晶性知能」とは経験や学習によって高まる能力。これは、このグラフが示すとおり年を重ねるにつれて増大しています。ご高齢の方に限らず、非常に勇気づけられる話ではありませんか。

先々週お話しした「樹状突起」のはたつちまのように、細胞の減少を補う代償能力があることも考えあわせると、脳の機能は、年をとるにつれて低下するのではなく、機能そのものが変わるのだといえます。年をとってからの脳は、若いころと比べると、機能を変え得意分野を変えて、新しく生まれ変わっているわけです。それならその新しい脳をどのようにに生かして生活していくか、これが老後の課題であり何より長寿時代に楽しく生きていく秘訣でしょう。(構成・高見亮子)



(8)